

# 平成29年度 志教育全体計画

宮城県石巻工業高等学校

校 訓
堅忍不撓

本校の教育目標
教育基本法及び学校教育法に従って、高等普通教育及び専門教育を施し、平和的な国家及び社会の形成者にふさわしい国民として、生きる力を育み、高い教養と技術を身につけた実践力のある工業技術者を育成する。

生徒の実態，教師の願い
・生徒の実態として、正しい目標を持ち、資格取得や部活動など積極的に取り組む姿が見られる。

保護者や地域の願い
・地域産業界において優秀な人材供給を行い多くの卒業が活躍し、地域社会の期待も大きい。 ・明確な目標を持ち、自立し社会に貢献できる人に育てしてほしい。

「志教育」の目標
地域と共に、高い志と豊かな人間性をもった工業技術者を育成する。 1 理解力・読解力・表現力を育成する。 2 将来の工業人として自覚と人間性を育成する。 3 社会における自己責任や役割を自覚させる。

重点指導事項		
人と「かかわる」	よりよい生き方を「もとめる」	社会での役割を「はたす」
学校生活や地域社会とのかかわりを通して、高い志と豊かな人間性を養う。適切なコミュニケーションを図れる基礎的な力を育成する。	現場見学やインターンシップなどの体験学習を通して、自分の適性を理解させる。また、地域産業界との連携を通して、将来の工業人としての自覚と目標の明確化を図る。	専門技術を生かした積極的な地域貢献への取組を通して、自分の役割と集団の一員としての自覚を持たせる。また、課外活動（部活動等）を通して基本的な生活習慣・態度を育成する。

各教育活動における取組の観点	
各教科	主体的な学習態度を身に付けさせるとともに、各教科の基礎的・基本的な知識と技術の定着を図り、実験や実習時に安全を心がける態度や協調性を養う。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立を図る。</li> <li>・公共の精神を尊び、規範意識を高め、社会の一員としての生きる力を高める。</li> <li>・自他の生命や人権を尊重する態度を育てる。</li> <li>・健全な職業観や勤労観を育成する。</li> </ul>
学習的・総合的時間	自らの課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や態度を養う。また、課題に取り組む経験をとおして、理解力・読解力・表現力を育成する。
特別活動	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。
課外活動	部活動等を通して、互いに競い、励まし、協力する中で友情を深めると共に、学級や学年を離れて仲間や指導者と密接に触れ合うことにより学級内とは異なる人間関係の形成につながる。また、努力による達成感や充実感をもたらす。
その他	登校時のあいさつ運動・マナーアップ運動を通して、基本的生活態度・習慣が身につくような教育体制の確立を目指す。

各学年の取組内容	
1年	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 新入生オリエンテーション 校訓・校歌・校則・学校行事・学習内容紹介、マナー講習、進路ガイダンス、など</li> <li>② 資格取得スケジュールの作成</li> <li>③ ライフプランの作成及び製本作業</li> <li>④ 進路ガイダンスの開催（3年生からの進路別体験談）</li> <li>⑤ 地域ボランティアの実施（地域美化クラス単位）</li> </ol>
2年	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 進路オリエンテーション 2年生での進路スケジュールの説明 インターンシップの実施（各学科）</li> <li>② 進路ガイダンス（進路別ガイダンス）</li> <li>④ 地域ボランティアの実施（地域美化クラス単位）</li> </ol>
3年	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 進路オリエンテーション マナー講習及び進路スケジュールの説明</li> <li>② 進路別講話及び試験対策説明会</li> <li>③ 三者面談による進路希望の確認</li> <li>④ 面接指導及び模擬面接</li> <li>⑤ 進路希望先の事前見学</li> <li>⑥ 最終進路希望先の提出と試験対策</li> <li>⑦ 校内美化活動</li> </ol>

家庭との連携
P T A活動や学校評価、授業公開などの機会を通じて、情報交換を図り、将来有為な工業人として、社会に貢献できる人材の育成に努める。

地域・企業との協働
専門性を生かした地域ボランティアやインターンシップなどの体験活動、そして企業技術者による最先端技術の実践的指導などにより、望ましい職業観・勤労観の育成を図る。